

私の仕事 この一年

S市図書館

細 井 日向子

S市図書館に司書として配属され、早くも1年が経とうとしています。S市図書館は蔵書が40万冊ほどの小さな図書館です。利用者の方にサービスが行き届く規模なので自分に合っていると感じます。当館の魅力は、指定管理や委託をしていないので利用者の要望に沿った専門的な提案ができること、ホールを併設しているので市の賑わいの場として活用されていること、流行や時事問題をすぐにコーナーに反映できるスピード感の3点だと思います。

私はカウンター業務のほか、選書や児童サービス、イベント企画・運営、庶務全般を担当しています。

選書は一般書・児童書・ビジネス書を担当しています。年間約7,000冊の受入に携わっており、図書館の充実の根幹となる仕事なので責任感を持って果たしています。日々のカウンター業務でどのような本が利用されているか見定め、所蔵データと照らし合わせながら選書しています。

児童サービスでは、児童が参加できるイベントを企画・運営しています。絵本の読み聞かせをしたり、わらべうたを歌ったりすることもあります。こどもたちに館内を案内して、請求記号や児童書架の説明をすることもあります。こどもたちの反応が新鮮でおもしろくやりがいを感じます。また県立図書館が主催する研修に参加し、ストーリーテリングを1話覚えることができました。間をとったり抑揚をつけたりするのが難しく練習の日々ですが、おはなしの魅力に気づくことができました。

図書業務以外の仕事をすることも多く、財務会計事務やHP管理、広報作成、予算資料作成等も行っています。イベントを企画する際は、出演者とのやりとりやポスター作成等も行います。

私がこれまで続けてこられたのは、一緒に働いている職員の皆さんのおかげです。皆さん人柄もよく、高い専門知識を持っていて尊敬しています。私は未熟で知識も乏しいので学習意欲や読書意欲に駆られます。しかし実際に図書館で働き始めて非正規雇用の問題を目の当たりにしました。私はありがたいことに正職員として採用していただきましたが、当館では職員の85%が非正規職員です。私よりはるかに高い専門性を持つ職員が非正規雇用であることに疑問を感じています。

この1年を振り返って、本を通して利用者の方の役に立てているという実感があります。様々な方が図書館を利用されるのを見て、図書館は生涯学習の場として必要な場所だと感じています。これからも勉強を続けながら成長していきたいです。